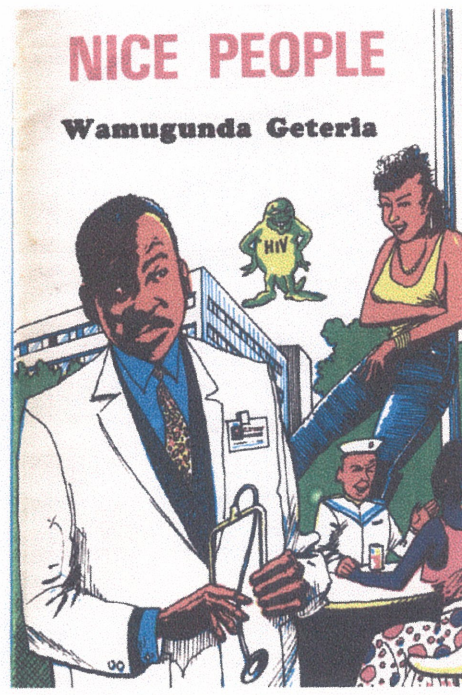


科学研究費報告書

英語によるアフリカ文学が
映し出すエイズ問題—文学と医学の
狭間に見える人間のさが

(平成 15 年～平成 18 年) 科学研究費補助金

基盤研究 (C) (2) 「一般」 課題番号 15520230



2007 年 (平成 19 年) 3 月

研究代表者・玉田吉行 (宮崎大学)



まえがき

この報告書は、「(平成 15 年～平成 18 年) 科学研究費補助金「基盤研究 (C) (2)」 「英語によるアフリカ文学が映し出すエイズ問題—文学と医学の狭間に見える人間のさが」 (課題番号 15520230) の研究成果をまとめたものです。

研究の目的は、英語で書かれたアフリカ文学がどのようにアフリカのエイズ問題を描いているかを探ることで、ケニアの2つの小説 *Nice People* と *The Last Plague* を軸に、疫病に映し出された人間のさがを考察しました。政治や経済の局面ではとらえられない人間のさがを知らなければ、深刻なアフリカのエイズ事情に対抗する方策は見い出せません。日本では、「アフリカに文学はあるの?」と聞かれることが多いのですが、文学作品は疫病に映し出された人間のさがを見事に描き出しています。元来、研究は何かの役に立つべきもので、この研究が何らかのお役にたてばと願っています。

報告書は、以下5章にまとめました。

- 1章 アフリカとエイズ
- 2章 アフリカの歴史
- 3章 『ナイス・ピープル』と『最後の疫病』
- 4章 南アフリカとエイズ治療薬
- 5章 哀しき人間の性 (さが)

1章では、HIVの特徴を軸に、アフリカのエイズの状況を描きました。

2章では、現在のエイズの惨状を生み出したアフリカの歴史を概観しています。

3章では、アフリカのエイズの現状を描き出しているケニアの小説『ナイス・ピープル』と『最後の疫病』を取り上げ、ケニアの歴史と作家グギ・ワ・ジオンゴを軸に、二つの作品を分析しました。

4章では、南アフリカの歴史を辿りながら、エイズ治療薬を巡る南アフリカの状況を考察しています。

5章では、辿ってきた哀しき人間の性 (さが) について整理したあと、エイズの現状を打開する解決策の例として、アーネスト・ダルコー医師を紹介しました。

元々文学に関心があり、疎外された状況下での自己意識をテーマにアメリカ人作家リチャード・ライトの作品を中心に研究を始めました。作品理解のために、アフロ・アメリカの歴史を辿る過程で、自然にアフリカについて考えるようになりました。1987年に MLA (Modern



Alex La Guma

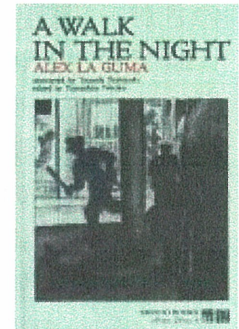
Language Association of America) の English Literature Other than British and America のセッションでの発表をきっかけに、南アフリカの作家 Alex La Guma を軸に、文学だけでなく南アフリカとアフリカ全般についても考えるようになりました。その頃に、旧宮崎医科大学 (現在は旧宮崎大学と統合し



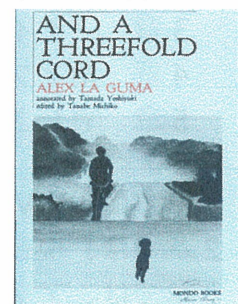
て宮崎大学)で、一般教育科目の英語を担当し始め、今年で20年目に入ります。1988年度に科学研究費補助金(一般研究C1000千円)の交付があり、アパルトヘイト体制下の1950~60年代の南アフリカ文学、特にLa Gumaの初期の二つの物語 *A Walk in the Night* (1962) と *And a Threefold Cord* (1964) を軸に、作品の中に反映された当時の文化的、社会的状況を描きました。

一般教育科目の英語の授業では、アフロ・アメリカやアフリカの歴史や文化、文学などを取り上げ、今までの歴史観などを見直したり、自分と自分の将来について考える機会が提供できるように、医学生の自己意識に問いかけました。それらを、注釈書 *La Guma, A Walk in the Night* (1989)、*La Guma, And a Threefold Cord* (1991)、翻訳書アレックス・ラ・グーマ『まして東ねし縄なれば』(1992年)、英文書 *Africa and its Descendants 1* (1995)、*Africa and its Descendants 2* (1998) にまとめました。

当初は授業では意識的に医学に関係ないものを取り上げていましたが、5年目あたりから自然とエイズやエボラ出血熱、臓器移植問題や土呂久砒素中毒問題など、医学関連の話題も取り上げるようになり、それらを「アフリカとエイズ」(2000年)、「医学生とエイズ:ケニアの小説『ナイス・ピープル』」(2004年)、「医学生とエイズ:南アフリカとエイズ治療薬」(2005年)、「アフリカ文学とエイズ ケニア人の心の襞を映す『ナイス・ピープル』」(2005年)、「医学生と新興感染症—1995年のエボラ出血熱騒動とコンゴをめぐる—」(2006年)にまとめました。それらを『アフリカ文化論1 南アフリカの歴史と哀しき人間の性』(横浜:門土社、2007年、64ページ)にまとめました。



A Walk in the Night

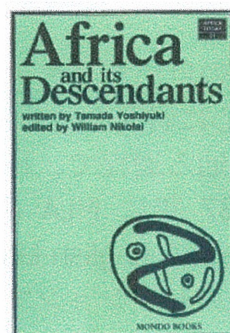


And a Threefold Cord

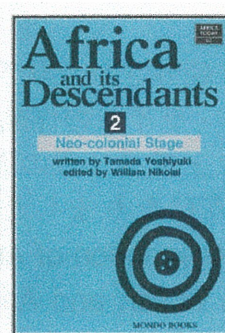
そうした「アフロ・アメリカ→アフリカ→エイズ」という流れのなか、①文学と医学、②教育と研究、③教養と専門の狭間にいたからこそ、今回のテーマ「エイズを主題とするアフリカ文学が描く人間性(さが)」が生まれたのだと思います。



『まして東ねし縄なれば』



Africa and its Descendants 1



Africa and its Descendants 2



『アフリカ文化論1 南アフリカの歴史と哀しき人間の性』

研究組織

研究代表者 玉田吉行 宮崎大学医学部医学科社会医学講座英語分野教授

目次

	まえがき	3
	研究組織	5
	目次	7
	活動報告	9
1 章	アフリカとエイズ	11
2 章	アフリカの歴史	16
3 章	『最後の疫病』と『ナイス・ピープル』	25
4 章	南アフリカとエイズ治療薬	42
5 章	哀しき人間の性 ^{さが}	72
資料 1	"Ngugi wa Thiong'o, the writer in politics: his language choice and legacy"	76
資料 2-1	第 27 回宮崎医科大学すずかけ祭シンポジウム 掲示パンフレット	83
資料 2-2	第 27 回宮崎医科大学すずかけ祭シンポジウム 配布パンフレット	84
資料 3	医学生とエイズ：ケニアの小説『ナイス・ピープル』	86
資料 4	アフリカのエイズ問題—制度と文学	96
資料 5-1	ホームページ「ノアと三太」	103
資料 5-2	ホームページ「دايره انگریزی د (英語科)」	104
資料 6	「エイズを主題とするアフリカ文学が描く人間性 (さが)」	105
資料 7	アフリカ文学とエイズ ケニア人の心の襞を映す 『ナイス・ピープル』	107
資料 8	医学部生とエイズ：南アフリカとエイズ治療薬	112
資料 9	(一九九二年・ハラレ) ジンバブエ滞在記 二	121
資料 10	医学生と新興感染症 —1995 年のエボラ出血熱騒動とコンゴをめぐる—	124
資料 11	アフリカ文化論 1 南アフリカの歴史と哀しき人間の性	133
資料 12	"Human Sorrow - AIDS Stories Depict An African Crisis"	138

活動報告

本研究の目的は、アフリカのエイズの問題を文学がどう描いているのかを探ることで、平成 15 年度（2003）は以下の活動を行ないました。

- 1 新植民地体制を批判・分析している Ngugi の作品のうち、*Writers in Politics* を中心に、上記の両作品の舞台となったケニアの政治や体制の事情を分析して“Ngugi wa Thiong’o, the writer in politics: his language choice and legacy”を活字にしました。（資料 1）
- 2 Wamugunda の *Nice People* を医学科 2 年生選択授業（講読）の中で取り上げ、そのねらいについて執筆しました。（2004 年度に出版）
- 3 2003 年度の宮崎大学医学部の大学祭で「アフリカと医療」のシンポジウムを行ない「アフリカのエイズ問題 制度と文学」の発表を行ないました。（資料 2）

平成 16 年度（2004）は以下の活動を行ないました。

- 1 Wamugunda の *Nice People* についてまとめたものを出版しました。（資料 3）
- 2 Meja Mwangi の *The Last Plague* の作品論をまとめ、出版の準備に入りました。
- 3 Ngugi wa Thiong'o の作品やジンバブエと南アフリカのエイズ事情、政治事情についてのまとめの作業を継続しました。
- 4 2003 年度の大学祭で行なった「アフリカと医療」のシンポジウムの発表「アフリカのエイズ問題 制度と文学」をホームページに公開しました。（資料 4）
(<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/tamada/works/africa/index.html>)
- 5 科研費の謝金で「ノアと三太」(<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/>)と「دايره انگریزی英語科」(<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/tamada/>)のホームページを作りました。（資料 5）
- 6 大学の広報誌「2003 Research 研究活動紹介宮崎大学」「ーエイズを主題とするアフリカ文学が描く人間性（さが）ー」を書き、HP にも公開しました。（資料 6）
(<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/tamada/works/essays/04-kenkyushokai.doc>)
- 7 *Nice People* を、引き続き医学科 2 年生の英語Ⅱ（Medical Topics）で取り上げました。

平成 17 年度（2005）は以下の活動を行ないました。

- 1 平成 16 年度に引き続いて、Wamugunda の *Nice People* についてまとめたものを出版しました。
<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/tamada/works/africa/04esp-nicepeople.doc>
（資料 7）に公開しています。
- 2 平成 16 年度に昨年度に掲げた「Ngugi wa Thiong'o の作品やジンバブエと南ア

フリカのエイズ事情、政治事情についてのまとめを行ないます。」のうちの南アフリカのエイズ事情、政治事情について出版しました。(資料8)

<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/tamada/works/safrica/05esp.s.africa.aids.doc>
に公開しています。

- 3 今回の研究課題の出発点ともなったジンバブエ滞在のまとめたものの一部を出版しました。(資料9)

<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/tamada/works/essays/05harare.doc>
に公開。

- 4 Meja Mwangi の *The Last Plague* の作品論を *Nice People* と合わせて英文にまとめました。(出版はまだです)
- 5 ジンバブエと南アフリカのエイズ事情、政治事情についての小論を、出版予定の『アフリカ文化論 (1) ー南アフリカの歴史と哀しき人間の性』(横浜：門土社)の中に収載予定です。
- 6 研究費の謝金でホームページを充実させました。
- 7 *Nice People* を、引き続き医学英語(医学科1・2年生選択科目)と医学科2年生必修科目の英語II (Medical Topics) で取り上げました。

平成18年度(2006)は以下の活動を行ないました。

- 1 新興感染症と医学生についてまとめたものを出版しました。

<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/tamada/works/africa/06Congo.doc>
に公開。

- 2 ジンバブエと南アフリカのエイズ事情、政治事情についての叢書『アフリカ文化論 (1) ー南アフリカの歴史と哀しき人間の性』(横浜：門土社)出版しました。(資料10)

http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/tamada/works/africa/06_book_Africa_1.doc
に概略と一部を公開しています。

- 3 Meja Mwangi の *The Last Plague* の作品論を *Nice People* と合わせて英文にまとめました。今秋に投稿、来春に出版予定。

<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/tamada/works/africa/05lastplague.doc>
に公開しています。

- 4 研究費の謝金でホームページを充実させました。
- 5 *Nice People* を、引き続き英語(医学科・看護学科1年生科目)と国際保健論(看護学科4年)で取り上げました。

今回の科学研究費補助金による最大の成果は、『アフリカ文化論 1 南アフリカの歴史と哀しき人間の性』(横浜：門土社、64ページ、760円)が出版出来たことと、ホームページ「ノアと三太」(<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/tamada/>)・「宮崎大学医学部英語科」(<http://tamada.med.miyazaki-u.ac.jp/>)が開設出来たことです。